



東京女子医科大学学術リポジトリ  
<https://twinkle.repo.nii.ac.jp>

## テュートリアル課題 熱が出た

|     |   |
|-----|---|
| 著者名 | 東京女子医科大学  |
| 雑誌名 | テュートリアル課題   |
| 巻   | 1997  |
| 号   | B6  |
| 発行年 | 1997-09-09  |
| URL | <a href="http://hdl.handle.net/10470/1176">http://hdl.handle.net/10470/1176</a> |

# 課 題 No. 1

## 「熱が出た」

無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。



Block. 6

あなたが、男の子を見ると、首の後ろと顔に赤いブツブツが見えました。ぐったりして元気がないので、近医への再受診を勧めました。同医は「点滴が必要でしょう。」と言って病院受診を勧め、紹介状を書いてお母さんに渡しました。病院では救急外来で当直医が病歴を聴取し、診察しました。

病歴および所見は以下のものであった。

既往歴：特記すべきことなし

家族歴：8ヵ月の弟が一人。特記すべきことなし

妊娠出産歴：正常

予防接種歴：ポリオ2回、BCGのみ済

体重：8,950g. 身長：75.7cm. 頭囲：46.4cm. 胸囲：48.0cmであった。なお、1週間前の体重は9.5kgであったという。体温は39.1℃、心拍数は130/分、呼吸数は52/分、陥没呼吸を認めた。視診では患児はぐったりし、頻回に湿性咳嗽を認めた。顔面、体幹に写真の様な発疹がみられ、目と口は写真のごとくであった。項部硬直はなかった。触診では頸部のリンパ節が小指頭大触知されたが、圧痛はなかった。腹部は肝は触知せず、皮膚緊張が正常の状態と比べて著明に低下していた。聴診所見では肺野に軽度のクラックルを認めた。心音に異常はなかった。直ちに必要な検査を施行した。

胸部X-Pで右下肺野に浸潤陰影があり、麻疹肺炎＋脱水症の診断がなされた。隔離病棟に直ちに入院となった。輸液療法と加湿、吸入療法を中心に治療を行い、数日で解熱し、肺炎も徐々に改善した。弟はまだ麻疹の予防接種を受けていなかったため、母は弟への感染を非常に心配していた。